

① けがの把握
応急処置

② ごみ置き場
の設定

③ 受付での
検温・マスク配布

感染症
対策

避難所開設の手順書

衛生班長用

まずは箱の中に入っている衛生班用のベストを着ましょう。

次に、チェックボックスの上から順に実行しましょう。

全てにチェック ☒が入ったら  マークがあるところを
声に出して読みましょう。

災害で混乱している中での開設となるので、マークがないところも
なるべく声に出しながら読んでください。

POINT!

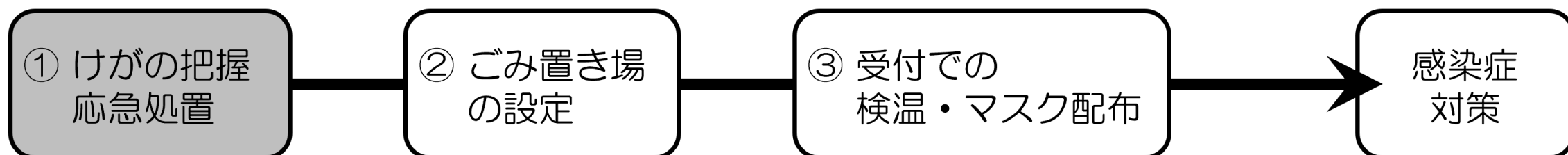
これから行うことを
班員にも分かるように

ゆっくりと

声に出して

読み上げましょう!!





衛生班は、避難者の怪我の応急処置を行ったあと、ごみ置き場の設定や感染症対策など、避難生活での衛生管理を行うことが役割です。



呼びかけ班が避難者に統制を伝えるので、呼びかけ班と一緒に行動し、グラウンドでけが人の把握と応急処置を行うため、班員に指示します。



声に出す！

避難者は体育館に入る前に受付を行うこととなっていて、今から2時間くらいから始まる予定です。

それまでのあいだ、我々でけがの応急処置や感染症対策などを行います。

受付では検温とマスク配布を行うため、応急処置の状況にもよりますが、今から1時間半くらいしたら準備します。

また、ごみ置き場の設定は、合間を見て準備しましょう。

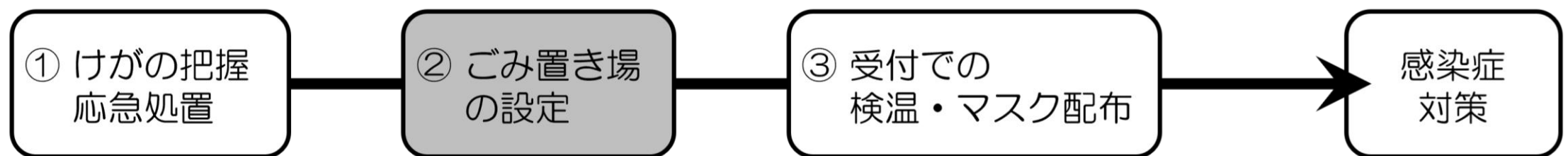


声に出す！

まずは、呼びかけ班と一緒にグラウンドで避難者のけがの把握を行います。応急処置を行う可能性があるので、1人は備蓄倉庫に向かい、物資班から救急箱を受け取ってグラウンドまで持ってきてください。

もう1人は、けがを把握します。

「けがの把握と処置」の指示カードに基づいて作業に取り掛かってください。



☐ 応急処置が落ち着いていたら、屋外にごみ集積所（一時的な保管場所）を、屋内にごみ置き場を設定します。

班長はグラウンドで待機し、2人で設定します。

（今後の流れ）班長から指示→ごみ集積所の設定→班長に報告→看板設置→班長から指示
→ごみ置き場の設定→班長報告→時間があるときにごみ置き場の分別



これからごみ置き場を設定します。

まずは屋外に「ごみ集積所」を、つぎに屋内の「ごみ置き場」を設定します。

ごみ集積所（屋外）の設定場所は、次の事項に注意してください。

- ・破損等がなければ、学校が平常時に使用しているごみ集積所を活用
- ・ごみ収集車が出入りしやすい場所
- ・調理場など、衛生上、注意を払わなければならない場所から離れた場所
- ・体育館から臭気が避けられる程度に離れた場所
- ・直射日光が当たりにくく、屋根のある場所



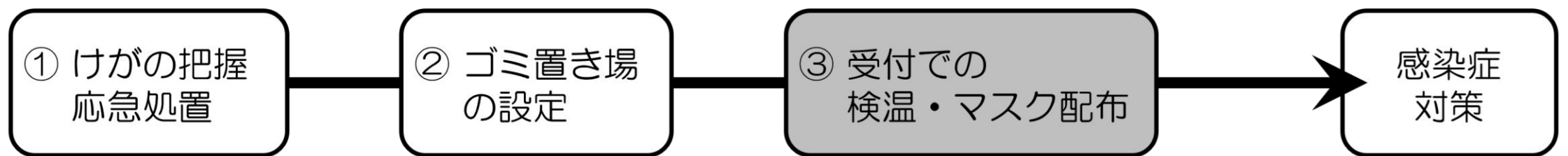
ごみ集積所が設定できたら、班長に報告し、「ごみ集積所」の表示を貼ってください。

ごみ置き場（屋内）は、住居班の体育館内の安全確認が終わったあとに確認します。

体育館入口などで、居住スペースから臭気が避けられる場所に設定しますが、受付と場所が重ならないよう、住居班と調整します。

ごみ置き場が設定できたら、班長に報告してください。

班長は班員から報告があったら、各設置場所を統括班に報告をしてください。



- ☐ 住居班が受付の方法を決めたら、住居班長から声がかかります。
- ☐ 衛生班で、検温器、消毒液、配布用のマスク、ごみ袋などを体育館入口まで持っていきます。



声に出す！

これから受付の準備を行います。

まずは、備蓄倉庫にいる物資班から、感染症対策物品の収納ボックス、消毒液を受け取ります。

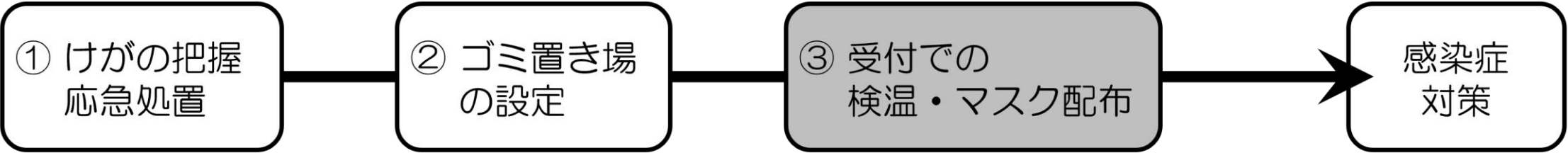
検温器は、保管している場所が違うので、物資班に場所を聞きます。

これらを体育館入口まで持ってこれたら、設置場所について指示します。

- ☐ 検温器は電源が必要なため、設置場所がコンセントから離れている場合、備蓄倉庫からコードリールも持ってくる必要があります。
- また、停電しているときは設置しても稼働しないので、感染症対策物品収納ボックスに入っている体温計を使用します。

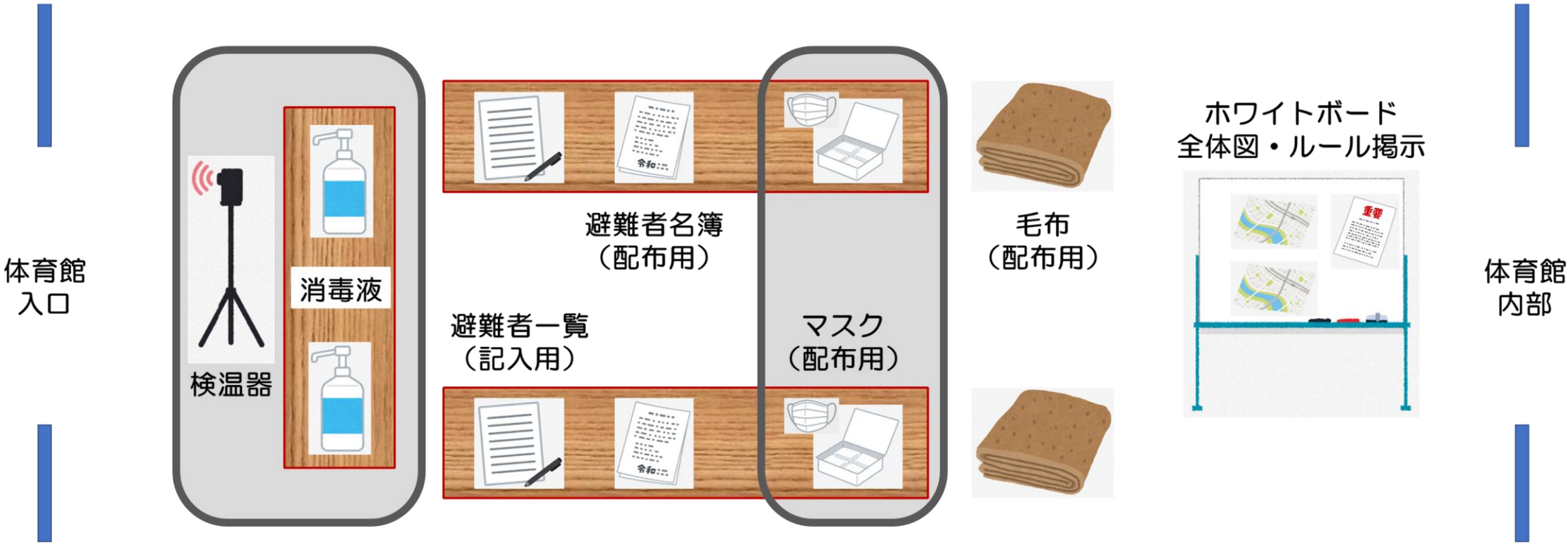
(備蓄倉庫の感染症対策物品)

物資	数量
● 感染症対策物品収納ボックス - マスク大人用（700枚）確認 - マスク子供用（100枚）確認 - 非接触型体温計（5個） - 除菌アルコール（7本） - 液体ハンドソープ（14本） - ラインテープ（20巻） - 使い捨て手袋（100枚入り2箱） - フェイスシールド70枚、ゴミ袋40枚 - 紙コップ100個	
● 手指消毒液	7本
● ペーパータオル	25個
● 防護服	45着
● アクリルパーテーション	1枚



受付のイメージは、下のようになります。

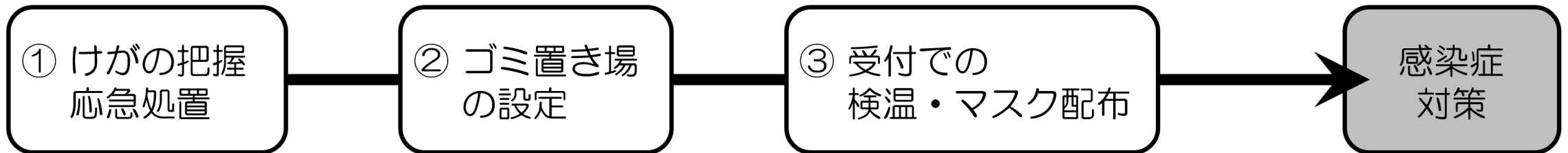
- ☐ 体育館入口の広さや避難者数によって変更されるので、住居班に確認します。
持ってきた物品は、下のグレーで表示されたように配置します。



- ☐ 受付が開始したら、マスクの場所に係を配置し、希望者に配布します。
検温器と消毒液に係を配置する必要はありません。
- ☐ 受付開始前に時間があれば、ゴミ置き場にゴミ袋などを設置します。
できればゴミ袋だけでなく、物資班から段ボール製ゴミ箱をもらいます。
下の表のうち必要な品目のゴミ袋を設置し、テープなどで表示します。

品目
燃やせるごみ
容器包装プラスチック
ペットボトル
破碎ごみ類／有害ごみ
びん・かん・スプレー缶
新聞・雑誌・雑がみ・段ボール
小型家電製品／古着・古布





- ☐ 受付時に感染症の疑いがある方がおられた場合、居住スペースから離れた位置に感染者対策用のスペースを設けます。
- ☐ 対策用のスペースは、体育館2階など、住居班に選定してもらいます。
- ☐ 決められた場所に、パーテーションルームを設置します。
パーテーションルームは備蓄倉庫には保管していないので、物資班に保管場所を確認します。



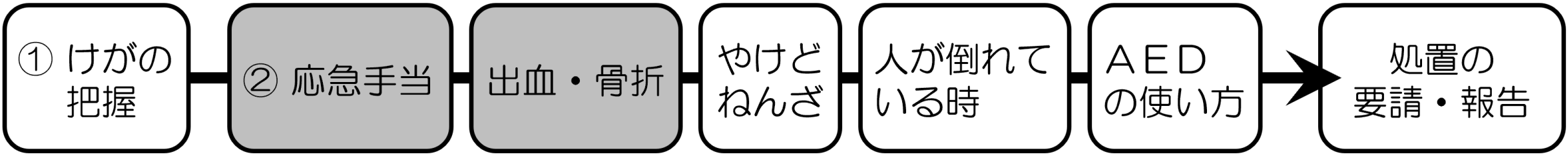
避難所開設の手順書

けがの把握と処置

けが人が多かったり、処置に緊急を要する場合があるため、衛生班だけで対応することなく、避難者で協力して処置を行いましょう。



- ① 班長の指示により、1人はけが人の把握を行い、もう1人は救急箱を取りに行きます。
- ② 呼びかけ班は、避難者に声がけする時に、衛生班を紹介します。
それに合わせ、けがをした方は衛生班に集まるように伝えるので、けがの種類や症状を把握します。
- ③ なるべく適切な対応ができるように、避難者の中に医療従事者がいないか確認し、協力を要請します。
- ④ けが人が多くいる場合は、衛生班3名だけで対処するのではなく、他の避難者にも協力を仰ぎます。
- ⑤ 症状によって、次のページから記載している手順で、応急手当を行います。
なお、救急箱にない物については、別のもので代用しながら対応してください。
班長は対処する場所（スペース）を決め、統括班に報告してください。



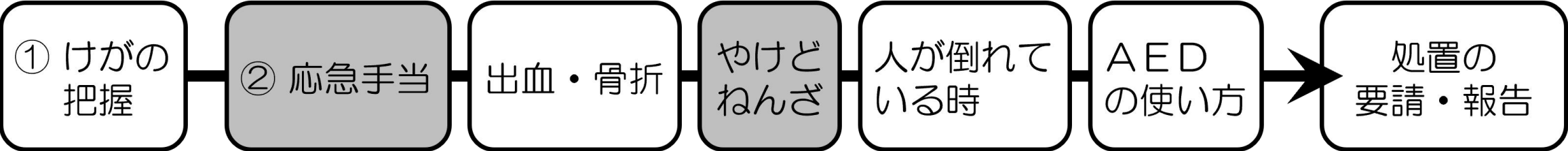
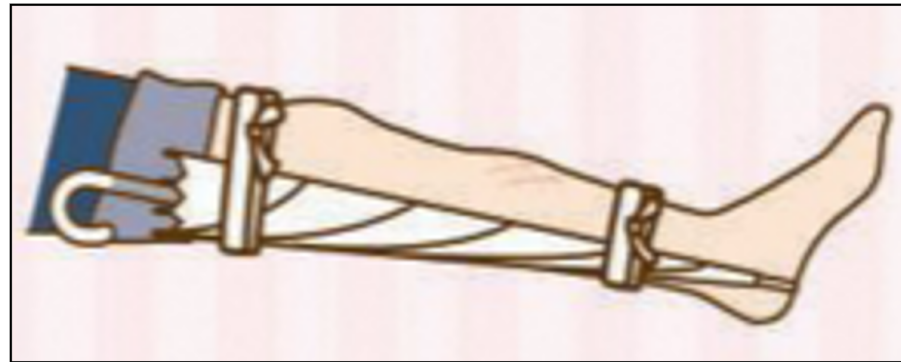
出血

- ① 出血している部分にガーゼやタオルを当て、その上から手のひらで圧迫する。
- ② この際、傷口は心臓よりも高い位置にする。感染を防ぐため、できる限り、ビニール手袋やビニール袋を使用するのが望ましい。



骨折

- ① 折れた部分に添え木をあてて固定する。
- ② 適当な添え木がなければ、板、雑誌、傘、段ボールなど、身近にあるもので代用する。



やけど

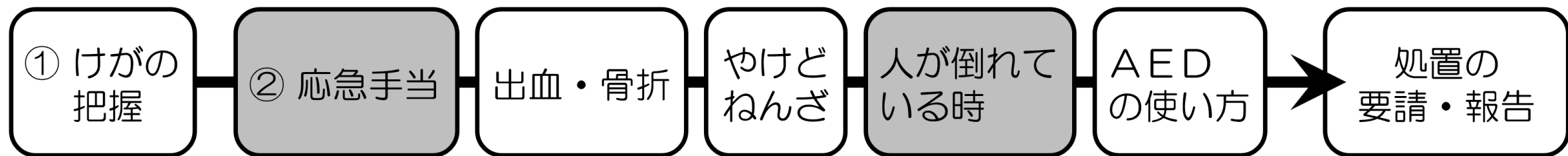
- ① 流水で十分冷やす。
(患部に直接強い水圧がかからないように注意)
- ② 衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさず、そのまま冷やす。
- ③ 水ぶくれを破らない。
- ④ 冷やした後は、消毒ガーゼかきれいな布で保護する。



ねんざ

- ① 患部を冷やす。
- ② 冷却パックは皮膚との間にうすい布などをはさんで直接皮膚に触れないようにする。



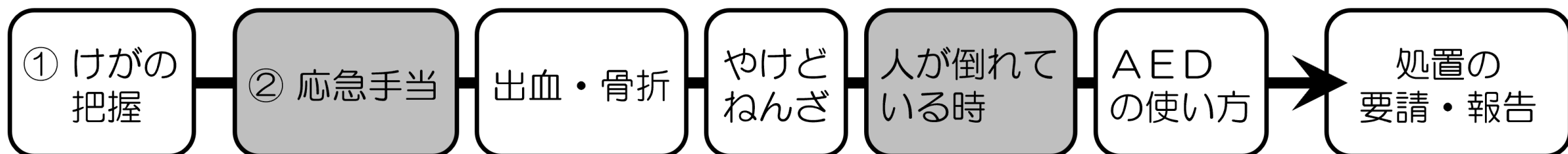


意識の確認

- ① 傷病者の耳もとで大丈夫ですか？などと大声で呼びかける。
- ② 同時に肩をやさしく叩き、呼びかけに対して返答や反応があるかを確認する。返答や応答などがなければ「反応なし」と判断する。
反応がない場合、大声で助けを求め119番通報とAEDの手配をする。

呼吸の確認

- ① 傷病者が「普段通りの呼吸」をしているかどうかを確認する。
- ② 傷病者のそばに座り、10秒以内に傷病者の胸や腹部の上り下がりを見て判断する。
- ③ 反応がないものの普段通りの呼吸がある場合は、体を横向きに寝かせ（回復体制）、様子を見ながら救急隊を待つ。
- ④ 上の足のひざと両ひじを軽く曲げ手前に出し、上になった手をあごにあてがい、下あごを前に出して気道を確保します。



胸骨圧迫

※AEDが届いた時点で、AED操作に移行する（けが措置8ページへ）

- ① 「普段通りの呼吸」がない場合、あるいはその判断に自信が持てない場合には心停止と判断し、AEDが届くまで、直ちに胸骨圧迫を開始する。
- ② 平らな場所に仰向けに寝かせ、救助者はその横に両ひざ立ちになる。
- ③ 胸の真ん中にある胸骨の下半分が圧迫部位。
圧迫部位に片方の手のひらの付け根部分を置き、その上にもう一方の手のひらを重ねる。
- ④ ひじを伸ばし、真上から垂直に傷病者の胸が約5センチ沈むまでしっかり圧迫する。
- ⑤ 1分間に100～120回の早いリズムで、連続して絶え間なく圧迫する。
圧迫と圧迫の間は十分に力を抜き、胸が元の高さに戻るようにし、30回繰り返す。
- ⑥ 小児の場合は両手または片手、乳児の場合は2本の指を当て、胸の厚さの3分の1程度沈むように行う。





人工呼吸（2回 省略可）

- ① 胸骨圧迫を30回行った後、直ちに気道を確保し人工呼吸を行う。
- ② 片方の手のひらを額に、もう片方の手の人差し指と中指を下あごの先に当てて持ち上げ、頭を後ろにそらす。
- ③ 額に当てた手の親指と人差し指で傷病者の鼻をつまみ、大きく口を開けて傷病者の口をおおい、1秒かけて息を吹き込む。
傷病者の胸が上がるのを確認する。
- ④ いったん口を離し、同じ要領でもう1回息を吹き込む。
- ⑤ 口と口が直接接触することに抵抗がある場合などは、胸骨圧迫だけを繰り返す。



心肺蘇生法を行う

胸骨圧迫を30回行った後、人工呼吸を2回」を1セットとしてこの動作を救急隊が到着し、引き継ぐまで繰り返します。



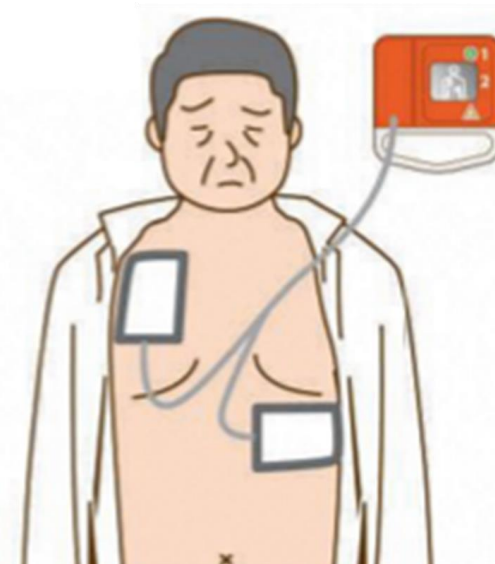
AEDの電源を入れる

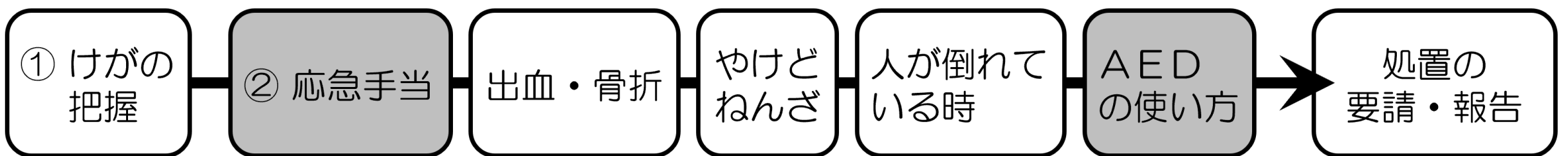
AED本体のふたをあけ、電源ボタンを押す。
（ふたを開けると自動的に電源が入る機種あり）



電極パッドを貼る

- ① 衣服を取り除き、胸をはだけさせる。
 - ② 電極パッドを、図示されている位置に貼る。
- ※ 胸が汗で濡れている場合はふき取り取ってから貼る。
 - ※ 皮膚の下に硬いこぶのようなものがある場合は、ペースメーカーなどが埋め込まれている可能性があるため、そこを避けて貼る。
 - ※ ネックレスなどの貴金属で取り外せるものは外す。
 - ※ 胸毛が極端に濃い場合、電極パッドが肌に密着しない可能性があるため、カミソリなどがレスキューセットに付属している場合は利用する。



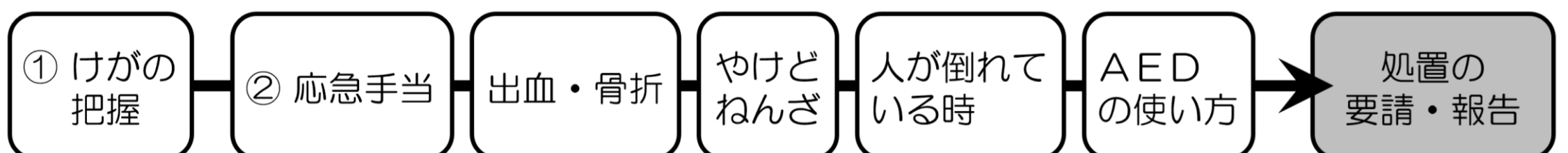


心電図の解析

- ① 電極パッドを貼ると、AEDが自動的に心電図を解析する。
- ② 電気ショックが必要な場合は「電気ショックが必要です」と音声流れ、充電が始まる。
※「電気ショックは不要です」と流れた時は、胸骨圧迫を再開する。

電気ショック

- ① 充電が完了すると「ショックボタンを押してください」の音声や充電終了の連続音が流れ、ショックボタンが点滅する。
- ② 倒れている方に触れている人がいないことを確認し、ショックボタンを押す。
- ③ 電気ショック後、すぐに胸骨圧迫を再開する。
- ④ AEDは心電図を解析して、2分ごとに電気ショックが必要か否かを指示してくるため、それに従う。
- ⑤ 救急隊が到着するまで、胸骨圧迫とAED使用を繰り返す。



- ① けがの症状や処置の状況は、統括班に報告します。
- ② 対応が難しいけがの場合は、統括班に報告して、救急車などを要請してもらいます。